

【平成 26 年度・前期学期・マクロ経済学 I・課題 3】

【問1】投資と資本ストックの関係について、以下の設問に答えなさい。

- (1) 投資の2重効果とはどのような意味か、説明しなさい。
- (2) ある年のすべての民間企業が抱える資本ストックがその年の1月1日に1200兆円で、この年の間に行われた投資支出（国内固定資本形成）が85兆円であった。今、資本減耗率、 $\delta = 0.05$ であった場合、次の年の民間企業による資本ストックはどのような額になるか計算しなさい。

【問2】いま、次の4カ国の2001年度の一人当たり所得（GNI）とGDPの成長率（1960年～1990年）のデータが与えられている。もし、これらの国々が1960年～1990年と同じ成長率で成長した場合、

- (ア) 2006年の一人当たり所得が2倍になるのに何年かかるか計算しなさい。
- (イ) 【応用】ここで示された2つのデータ系列について、縦軸に一人当たりGDPの平均増加率、横軸に一人当たりGDPをとってグラフにしなさい。より貧しい国と豊かな国の格差は縮まるか？格差が無くなるとしたら、1世代を30年と考えると何世代必要か？

国名	2006 年の 1 人当たりのGDP (10 億米ドル)	2006 年～2013 年の 1 人当たりのGDPの 年間平均増加率 (%)
ハンガリー	184.5	3.18%
アイスランド	10.9	2.47%
日本	4 064.9	2.03%
スペイン	1 341.1	1.71%
イギリス	2 155.6	1.12%

【問3】ある経済が閉鎖経済で、民間部門によってのみ構成されているとする。また、次のよう、この経済の財の市場を表す式が与えられている。これらについて後の問に答えなさい。

消費関数： $C = 30 + 0.8Y$

独立投資： $I = 130$

但し、 C は消費支出、 I は投資支出、 Y は国民所得であるとする。

（講義では総所得を Q としてあらわしています。）

- (ア) 基礎消費はいくらになるか、また限界消費性向（MPC）はいくつであるか特定しなさい。
- (イ) この経済の総需要を表わしなさい。
- (ウ) この経済の単純乗数はいくつになるか、数式と数値を示しなさい。
- (エ) この経済の均衡条件を数式であらわし、均衡国民所得を求めなさい。
- (オ) 潜在生産高とはどのような生産高か説明しなさい。
- (カ) この経済の潜在生産高が1000である場合、潜在生産高と（エ）の均衡国民所得の大きさの差（国民所得の不足分）はどの程度あるか計算しなさい。
- (キ) この経済にはインフレギャップとデフレギャップのいずれが存在するか？またその大きさはどの程度か示しなさい。
- (ク) （カ）で求めたギャップの大きさと単純乗数を掛け合わせた数値が（カ）で求めた不足分と等しくなることを確認しなさい。